

會 告

大正十二年九月一日午前十一時五十八分關東地方に大地震あり、次ぐに大火災を以てし須臾にして東京横濱を灰燼に歸せしむ、慘又慘其狀は眞に人をして聞くに堪えざらしむ、多數本協會々員諸氏の又此厄を蒙りたる者あるは誠に同情の至りに堪えざるものにして本協會は此等會員諸氏に對し謹で慰問の辭を呈す。

本會々館も亦類焼の厄を蒙りたるは遺憾の極なり、其當時の模様及び本會の被害額、現存財産額等は本誌上に報告せるも重要な帳簿類を安全に取り出し得たるは幸なり、本會々誌八月號は其校正既に成りたるも印刷所の焼失と共に其全部を滅失し之を發送するを得ざらしめ茲に二ヶ月間休刊するの已むを得ざるに至りたるは遺憾の次第にして切に會員諸君の御諒察を願ふ所なり、其後編輯印刷等に多大の不便あるに拘はらず極力盡瘁の結果十月に至り少許ながら會誌發行の運びに至りたるは少しく慰むる所ありとす。

今や帝都復興に對する諸機關成り諸工事の建設も亦多事ならんことし、鐵材の需要又正に大に起らんことす、本協會も亦新に甦りて將來の發展を期さるべからず、茲に會員諸氏の助力協同を熱望す。

大正十一年十一月

東京市麴町區永樂町二丁目一番地
日本工業俱樂部內

日本鐵鋼協會